

総括評価表

平成25年度

徳島県立城ノ内中学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
中高一貫教育の推進	(全校レベル) 中高それぞれが相乗効果を生み出し、本校の活性化に役立てる。 (下位組織レベル) 中高生の関係は良好である。	評価指標 「中高生はお互いに刺激しあって、本校を活性化している」と答えた生徒・保護者・教職員が60%以上。 「中高生の関係は良好である」と答えた生徒が60%以上。	評価指標による達成度 「中高生はお互いに刺激しあって、本校を活性化している」と答えた生徒60%(-2)、保護者73%(-3)、教職員65%(+15) 「中高生の関係は良好である」と答えた生徒73%(+3)	総合評価 B (所見) 学校行事等で中高の交流が進んでいることで、いずれの項目についても、評価指標を達成している。特に部活動においては、3年生の10月頃から高校部活動の体験ができるため、好結果を得られている。	①他の重点課題より、肯定的な意見の割合が低いが、実際の中高合同の行事を見ると、良く機能しているようにも感じる。高校生のリーダーシップを中学生がしっかりと学び取る場となっているのではないかと考える。
		活動計画 ①吉野川堤防清掃作業を中高合同で実施する。 ②城ノ内祭を中高合同で開催する。 ③一部の部活動で中高合同の練習を行う。	活動計画の実施状況 ①吉野川堤防清掃作業を中高合同で3回実施した。 ②文化祭、体育祭を中高合同で開催した。 ③弓道部・美術部・書道部などなど11部で合同練習を行った。		
確かな学力と進路観の育成	(全校レベル) 授業の充実改善に積極的に取り組み、きめ細かな進路指導を行う。 (下位組織レベル) 研究授業・授業研究会の実施。 各種検定への参加。 外部講師を活用した授業の実施。	評価指標 「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者・教職員が70%以上。 「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒・保護者が70%以上。	評価指標による達成度 「教員は生徒の学力を伸ばす教育を行っている」と答えた生徒89%(+2)、保護者85%(±0)、教職員95%(+2) 「教員はわかる授業を目指して取り組んでいる」と答えた保護者81%(+2)、教職員95%(+2) 「各種検定は学習の励みになる」と答えた生徒86%(±0)、保護者92%(-2)	総合評価 A (所見) 教員が授業力向上をめざし、個人の研鑽はもとより、中高合同の授業研究会も行い効果を上げている。今後は生徒による授業評価の結果を、教員一人一人がしっかりと受け止め、さらなる改善を図る。本年度も生徒への補充学習や高校の学習に向けての発展的な内容も積極的に取り入れ成果を上げた。また各種検定の実施や外部講師による授業は、本校の特色ある取組として定着してきており、その効果も高い。	①教職員の自己評価が高いのは、教育活動に責任感と自負を持って臨んでいることの表れだと評価したい。 ②教員相互の授業参観は、実施期間を決めて行う方が効果的だと考える。 ③リーディングハイスクールの実施に伴い、授業進度が速くなる。生徒の習熟度について配慮が必要である。
		活動計画 ①研究授業・授業研究会を中高合同で実施する。 ②授業評価を年2回実施する。 ③各種検定を積極的に実施する。 ④外部講師を活用した授業を実施する。	活動計画の実施状況 ①中高合同での研究授業・授業研究会を年8回実施した。 ②授業評価を、年間2回実施した。 ③漢字検定(1回)、数学検定(2回)、英語検定(2回)を実施し、ほぼ全員がいずれかの検定を受検した。 ④総合的な学習の時間、体育科、音楽科などで外部講師を活用した授業を実施した。		

総括評価表

平成25年度

徳島県立城ノ内中学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
人権教育の推進	(全校レベル) 全ての教育活動で人権教育の推進を図る。	評価指標 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上	評価指標による達成度 「すべての教育活動の中で人権に配慮した指導が行われている」と答えた生徒86%(+9)、保護者82%(-6)、教職員80%(+9)	総合評価 A (所見) 人権問題についての研究授業を各学年で実施するなど、年間を通じて授業をはじめ、すべての教育活動において、生徒が自他を大切に思う心や態度を育成することに努めた。また中高合同の研修会も実施し、教員の指導力の向上を図った。ただ、教員自身が自己の言動を振り返り、人権に配慮したものであるかどうかを自省していくことを忘れてはならない。	①全体的に肯定的な意見の割合が高く、人権に配慮した教育がなされていることについて、一定の評価ができる。 ②アンケート調査により実態の把握に努めているようだが、その結果を生かす手段を一考することも必要ではないか。
	(下位組織レベル) 学級活動や学校行事の充実を図る。	「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上 活動計画 ①人権問題についての研究授業、事前研究会を実施する。 ②人権問題意見発表会の実施。 ③人権問題講演会等の実施。 ④職員研修の充実。 ⑤学校生活に関するアンケート調査を実施する。	「生徒は自他を大切に思う心や態度が育っている」と答えた生徒79%(+1)、保護者87%(-1)、教職員80%(+16) 活動計画の実施状況 ①各学年で研究授業を実施し、事前・事後の研究会を実施した。 ②人権教育意見発表会を実施した。 ③1年生と保護者を対象に、人権問題講演会を実施した。 ④中高合同の職員研修会を2回、地域研修会を1回実施した。 ⑤学校生活での悩み等について、アンケート調査を学期に1回実施し、生徒理解やいじめ等の問題の早期発見に努めた。		
基本的な生活習慣の確立と道徳性の涵養	(全校レベル) 学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る。	評価指標 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立を図る」と答えた保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は家庭と連携し、生徒の基本的な生活習慣の確立に努めている」と答えた保護者73%(-2)、教職員95%(+16)	総合評価 B (所見) 服装等校則が守られていないと感じている生徒が昨年より多く、教員の感覚と大きな開きがある。城ノ内生としての自覚を促すとともに、全教職員の共通理解のもと、指導にあたる必要がある。また、あいさつが交わされていないと感じた教職員も多く、基本的な生活習慣を築く大切な要素として、教師が率先垂範していくことも必要である。全体的には、授業開始前の着席等、規律のある学校生活を送れているように思われるが、さらに基本的な生活習慣の確立の必要性を理解させ、粘り強く指導していく。	①あいさつは家庭で身につけていく事柄でもある。しかしながら、実社会においては、あいさつができることが基本であり、円滑なコミュニケーションをとるためにも大切な習慣であるから、学校での継続的な指導も欠かすことができないと考える。 ②定期的実施している学習実態調査の結果を基に、家庭での生徒の時間の使い方を把握し、保護者と連携しながら基本的な生活習慣の確立をめざす。 ③規律ある行動は、時間の遵守から始まる。授業開始前に教科担任が授業場所に出向くことが、今後も継続できるように全教職員で実践していく。
	(下位組織レベル) 「挨拶の励行」の徹底。 「城ノ内生としての自覚ある行動」をとる。 「時間厳守」の徹底。 「服装頭髪」指導の徹底。	「生徒は挨拶ができている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「城ノ内生としての自覚を持った行動ができている」と答えた生徒・教職員が70%以上。 「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 「服装頭髪などについて校則が守られている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。 活動計画 ①あいさつ運動の実施。 ②校内外でのマナーの指導をする。 ③始業前着席の励行。 ④服装頭髪検査を定期的実施する。	「生徒は挨拶ができている」と答えた生徒74%(-9)、保護者85%(-3)、教職員55%(-16) 「城ノ内生としての自覚をもった行動ができている」と答えた生徒74%、教職員90% 「学校生活全般において時間が守られている」と答えた生徒79%(+4)、保護者93%(-2)、教職員95%(+2) 「服装頭髪が守られている」と答えた生徒70%(-15)、保護者92%(-3)、教職員100%(±0) 活動計画の実施状況 ①毎朝の教職員、生徒会役員・生活委員及び生徒有志によるあいさつ運動を実施した。 ②毎朝交通委員による駐輪場の整理整頓を実施した。 ③教員が授業場所に始業前に行くことを励行した。 ④学年等の集会時の服装頭髪について指導した。		

総括評価表

平成25年度

徳島県立城ノ内中学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
防災・安全教育の徹底と環境教育の推進	(全校レベル) 防災意識の高揚に努め、防災への取組を推進する。	評価指標 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校は防災意識の高揚に努めるとともに、防災への取組を推進している」と答えた生徒82% (+7)、保護者81%(+1)、教職員80%(+2)	総合評価 B (所見) 交通ルールやマナーが遵守されていないと感じている生徒・教職員が、昨年よりも大きく増加している。違反者の増加、マナーの低下は、交通事故につながる可能性も大きく、命に関わる重大な問題だと認識させ、ルールやマナーの遵守を徹底させる。防災に関しては、施設・備蓄品の充実、避難訓練の定期実施等により、生徒・教職員の防災意識は高揚している。しかし、災害発生時に十分な対応がとれるまでにはその態勢づくりが進んでいないことを教職員自身が自覚して取り組む必要がある。	①防災意識の高揚を図るため、職員研修を充実させる。また、災害時の様々な事態を想定して、実質的な対応が迅速にとれるように、環境整備及び教職員体制の改善を行う。 ②生徒への交通安全教室の実施や、自転車の定期点検、また日々の啓発活動とともに、教職員による、街頭での立哨指導を計画的に実施する。 ③ゴミの分別、節電・節水、リサイクル活動、吉野川堤防清掃、また毎日の清掃活動等を生徒が主体的に行い、新学校版環境ISOの取組を推進していく。
	(下位組織レベル) 交通ルールや交通マナーを守る	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「交通ルールや交通マナーが守られている」と答えた生徒42% (-23)、教職員55% (-16)		
	清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている。	「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「清掃に積極的に取り組み、美しい環境が維持できている」と答えた生徒78%(±0)、教職員80% (+9)		
	ゴミの分別や節電・節水に取り組む。	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒・教職員が70%以上。	「ゴミの分別や節電・節水に取り組んでいる」と答えた生徒72%(+1)、教職員85% (-7)		
		活動計画 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を年2回実施する。 ②交通安全教室を実施し、安全教育の徹底を図る。 ③毎日の清掃活動を充実させる。 ④吉野川堤防清掃活動や学校内外の清掃活動に年3回以上取り組む。	活動計画の実施状況 ①防災避難訓練(火災・地震・津波)を2回実施し、Jアラートによる初期退避行動訓練を2回実施した。 ②交通安全教室を実施した。また、PTA校外指導部が朝の立哨指導を実施した。 ③清掃時の生徒管理を適切に行った。 ④吉野川堤防清掃活動を、中高合同で3回実施した。(7、10、12月)		
特別活動の活性化	(全校レベル) 学校行事を充実させ、学校全体を活性化化する。	評価指標 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	評価指標による達成度 「学校行事は充実しており、生徒が生き生きと取り組んでいる」と答えた生徒93% (+2)、保護者93% (+1)、教職員95% (+9)	総合評価 A (所見) 体験的な活動を取り入れた様々な学校行事は、生徒・保護者にも高い支持を得ており、生徒の自主性や協調性、豊かな人間性の育成にもつながっていると思われる。生徒会活動、部活動でも活発な活動が展開されており、成果を上げている。教員の部活動に関する評価が低い、指導体制の改善を考えたい。	①部活動が活発か否かは、基準がわかりづらい面もある。教員の評価が低い、施設等について高校との共用があり、不便さを感じているためかもしれない。しかし中高一貫教育校だからこそ、そこに付加価値を見だし努力していただきたい。 ①各行事をPDCAサイクルにより生徒の実態に即し、より効果的な実施ができるように改善していく。 ②生徒会活動は、より主体的な活動が展開できるように、生徒の育成を図る。また、高校生徒会との連携も強化していく。さらに、部活動においては、指導体制や、設備等の面で活動に困難な点もあるので、改善を図る。
	(下位組織レベル) 部活動を活発にする。	「部活動は活発である」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「部活動は活発である」と答えた生徒83% (+2)、保護者80% (-4)、教職員55% (-23)		
	生徒会活動の充実を図る。	「生徒会は活発に活動している」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「生徒会は活発に活動している」と答えた生徒83% (+2)、教職員80% (-5)		
		活動計画 ①部活動を活性化する。 ②生徒会活動を活性化する。	活動計画の実施状況 ①部活動加入率は1年92%、2年92%、3年88%。(4月末現在) ②生徒会執行部が中心となり、各専門委員会がそれぞれの役割を計画的に実施し、充実した活動を行った。		

総括評価表

平成25年度

徳島県立城ノ内中学校

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方針
重点課題	重点目標	評価指標と活動計画	評価 * ()は昨年度との比較で、増減ポイント数を表す。	学校関係者の意見	
開かれた学校づくりの推進	(全校レベル) ホームページの充実や学校公開の日を実施する。	評価指標 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者が70%以上。	評価指標による達成度 「ホームページは本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた保護者87%(+2)	総合評価 A ----- (所見) ホームページは担当教員が中心となり、昨年に比べて多くの教職員が更新することができ、多岐にわたる情報発信を行うことができた。この結果、生徒の学校生活の様子も日々広報することができたため、ホームページへのアクセス数も飛躍的に伸び、本校への理解を得るために一定の効果が上がったと思われる。また学校公開の日や各学年で毎月発行している学年だより等もその効果が期待できる。	①本年度ホームページの更新には目を見張るものがあり、また活動の様子が迅速かつ多岐にわたって掲載されている。情報公開に貢献できていると感じる。 ②他の公立中学校と比較して、中高一貫教育校としていろいろな面で制約が多いと思うが、工夫して保護者等の理解を得てほしい。
	(下位組織レベル) ホームページの更新回数を増やす。	ホームページの更新に全ての教員が関わり、週に1度は更新されるようにする。	多くの教員がホームページを更新し、学校全体として、平均週2回以上程度は更新することができた。		
	学校公開の日の実施。	「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者が70%以上。	「学校公開の日は本校を理解してもらうのに効果的である」と答えた保護者92%(±0)、教職員90%(-10)		
	城ノ内祭の公開。	「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒・保護者・教職員が70%以上。	「文化祭の公開は本校を理解してもらうのに役立っている」と答えた生徒90%(+4)、保護者92%(-2)、教職員85%(-8)		
		活動計画 ①ホームページを随時更新する。 ②「学校公開の日」を実施する。 ③文化祭を公開する。 ④スクールガイドの発行。	活動計画の実施状況 ①ホームページへの年間アクセス数は331,225回(昨年比54.5%増)、総アクセス数は1,259,134回(2004.10.20~2014.2.28) ②学校公開の日への参加者545名。 ③文化祭を公開し、1918名が来校した。 ④スクールガイドを発行した。		①ホームページ上での、生徒の学校生活の様子は、個人情報保護に留意しながら、可能な限り掲載していく。また、その更新が迅速に行われるように、すべての教員がホームページの更新に携われるようにさらに研修していく。 ②本校の取組を直接アピールすることができる。学校公開の日や文化祭、また入学式募集説明会等においては、その内容をさらに充実させたものとする。
学校運営体制の充実	(全校レベル) 月例運営委員会や職員会議を活性化させるとともにPTA活動の充実を図る。	評価指標 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒・保護者が70%以上	評価指標による達成度 「学校生活や学校の教育活動全般に満足している」と答えた生徒91%(+4)、保護者88%(+1)	総合評価 A ----- (所見) 本校の教育活動については、本年度も生徒・保護者から高評価を得ることができた。これは、学校の運営体制がよく機能していると考えられるが、さらに活性化させていく努力が必要である。またPTA活動においては、保護者の理解と協力により、校舎内外の環境の美化及び改善が推進された。さらにPTAが中心となり中学校創立10周年にあたり、記念講演や記念植樹など多数の記念事業を実施することができた。	①保護者からの肯定的な評価は、やまも通信の配信やホームページ等により、活動の認知度が高いためだと感じる。 ②学校評価全般に言えることであるが、課題としたことを、次年度の活動計画等にしっかりと反映させ、改善につなげていきたい。
	(下位組織レベル) 月例運営委員会で学校生活や教育活動全般を点検するとともに各学年、各課などにおいて課題解決を図る。	「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒・保護者が70%以上 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者・教職員が70%以上	「勉強・部活動・学校行事など豊かな教育活動が行われている」と答えた生徒96%(+2)、保護者95%(-1) 「PTA活動や学年部会は活発である」と答えた保護者89%(-4)、教職員95%(+2)		
		活動計画 ①運営委員会を毎月1回開催する。 ②定期的に中学職員会や学年部会を開催する。 ③中高合同PTA役員会を年5回開催し課題解決に取り組む。	活動計画の実施状況 ①中高合同の運営委員会を毎月1回実施し、各課題について協議した。(年12回開催) ②毎月1回、中学職員会を実施し、職員の共通理解を図った。また、学年部会を随時開催した。 ③中高合同PTA役員会が4回開催され、活発な議論のなか、空気清浄機設置等が決定された。また、中学校PTA役員会も3回実施、創立10周年記念事業もPTAが中心となり多数催された。		
					①中高の連携をさらに推進していくために、特設の中高合同会議の他、各科・課における日常の連携を密接なものにしていく。 ②中学校単独の会議も、必要不可欠なものであるから、計画的かつ効果的に実施する。 ③学校行事はこれまでの反省に基づき、実施方法の改善を図りながら、より質の高い活動につなげていく。 ③保護者の理解と協力を求め、関係を図りながら生徒の学習・生活環境の整備を進めていく。